

第 44 回「山形県内企業の景気動向調査」速報

(平成 27 年 8 月調査)

～業況は停滞している～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲7.9(前回調査比 2.4 ポイント下落)と**若干悪化**した。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」の 2 項目で悪化となった。中でも「営業利益」が▲10.9(前回調査比 6.4 ポイント下落)と、悪化幅が大きい。また、「人員・人手」は 17.9(前回調査比 4.1 ポイント上昇)と 3 期ぶりに上昇し、再び人手不足感が強まっている。
- **業種別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、卸・小売業が▲11.0(前回調査比 1.3 ポイント上昇)と改善したものの、建設業が▲24.7(前回調査比 1.4 ポイント下落)、製造業が 1.5(前回調査比 3.7 ポイント下落)、サービス業が 0.0(前回調査比 6.2 ポイント下落)と、**3 業種で悪化**となった。要因として、公共工事の減少や原材料費の高騰、消費の低迷などが考えられる。
- **地域別**に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、村山南部が▲8.1(前回調査比 8.1 ポイント下落)、村山北部が▲12.1(前回調査比 7.9 ポイント上昇)、最上が▲26.7(前回調査比 7.6 ポイント下落)、置賜が▲8.6(前回調査比 3.7 ポイント下落)、庄内田川が 0.0(前回調査比 17.1 ポイント下落)、庄内飽海が▲1.2(前回調査比 16.9 ポイント上昇)と、村山北部、庄内飽海で改善したものの、村山南部、最上、置賜、庄内田川で悪化した。
- **先行き見通し**は「自社の業況DI値」が▲7.3(今回調査比 0.6 ポイント上昇)と**ほぼ横ばい**の見込みとなっている。

【特別調査】

- **設備投資動向**について尋ねたところ、27 年度中に設備投資を「実施した」、または「実施する」と回答した企業の割合は 40.7%(昨年度比 1.1 ポイント上昇)と、昨年度とほぼ横ばいとなった。

平成 27 年 8 月

株式会社 フィデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況	1
1. 概況	1
2. 業種別の動向	2
(1) 業種別の概況	2
(2) 業種別 D I 値の動向	3
① 建設業	3
② 製造業	4
③ 卸・小売業	5
④ サービス業	6
3. 地域別の動向	7
(1) 地域別の概況	7
(2) 地域別 D I 値の動向	8
① 村山南部	8
② 村山北部	9
③ 最上	10
④ 置賜	11
⑤ 庄内田川	12
⑥ 庄内飽海	13
II. 景気の天気予報図	14
III. 特別調査	15
1. 設備投資動向	15
2. 設備投資金額	17
3. 設備投資目的	18
<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	20
<参考資料 II : 調査の概要>	20

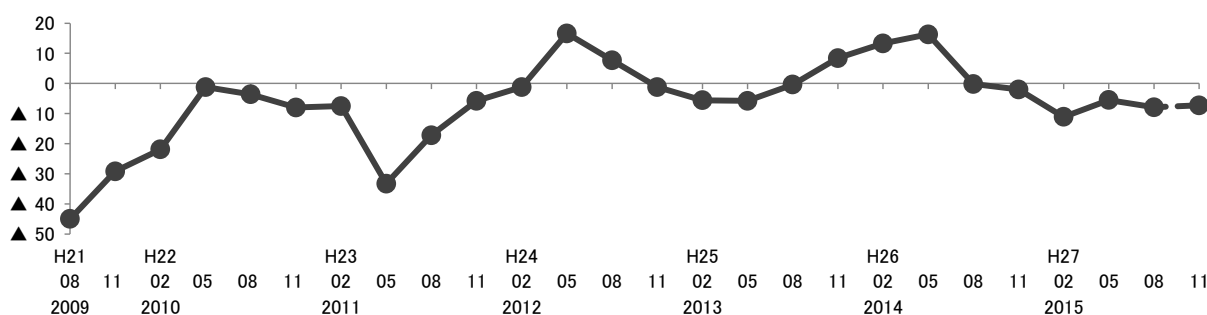
I. 県内企業の業況

1. 概況

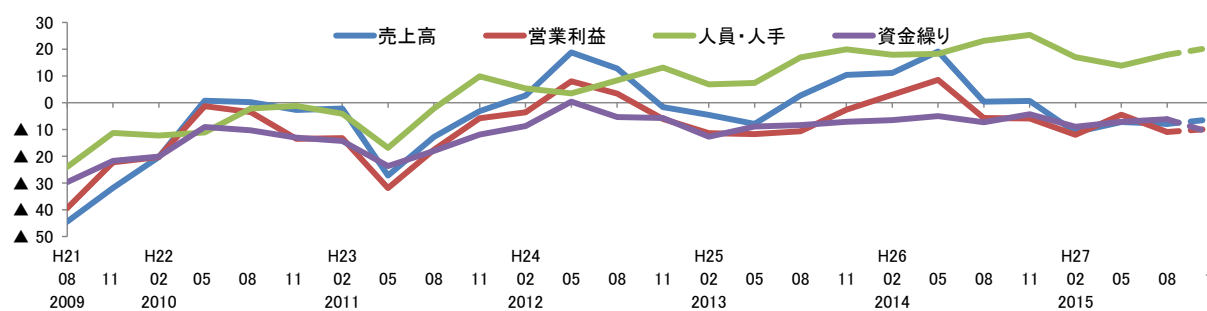
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲7.9（前回調査比2.4ポイント下落）と若干悪化した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」の2項目で悪化となった。中でも「営業利益」が▲10.9（前回調査比6.4ポイント下落）と、悪化幅が大きい。また、「人員・人手」は17.9（前回調査比4.1ポイント上昇）と3期ぶりに上昇し、再び人手不足感が強まっている。

先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲7.3（今回調査比0.6ポイント上昇）とほぼ横ばいの見込みとなっている。

図表1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
H 26.08 (n=454)	▲ 0.2	(▲ 16.5)	▲ 13.7	0.4	▲ 5.7	23.1	▲ 7.3
H 26.11 (n=442)	▲ 2.0	(▲ 1.8)	▲ 1.8	0.6	▲ 5.9	25.3	▲ 4.3
H 27.02 (n=448)	▲ 11.1	(▲ 9.1)	▲ 14.5	▲ 11.0	▲ 12.0	17.0	▲ 9.0
H 27.05 (n=442)	▲ 5.5	(5.6)	▲ 15.4	▲ 7.2	▲ 4.5	13.8	▲ 7.1
H 27.08 (n=435)	▲ 7.9	(▲ 2.4)	▲ 15.1	▲ 7.9	▲ 10.9	17.9	▲ 6.2
前回調査比	-	-	-	(▲ 0.7)	(▲ 6.4)	(4.1)	(0.9)
先行き見通し	▲ 7.3	-	-	▲ 6.2	▲ 9.7	20.7	▲ 11.5
今回調査比	(0.6)	-	-	(1.7)	(1.2)	(2.8)	(▲ 5.3)

※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

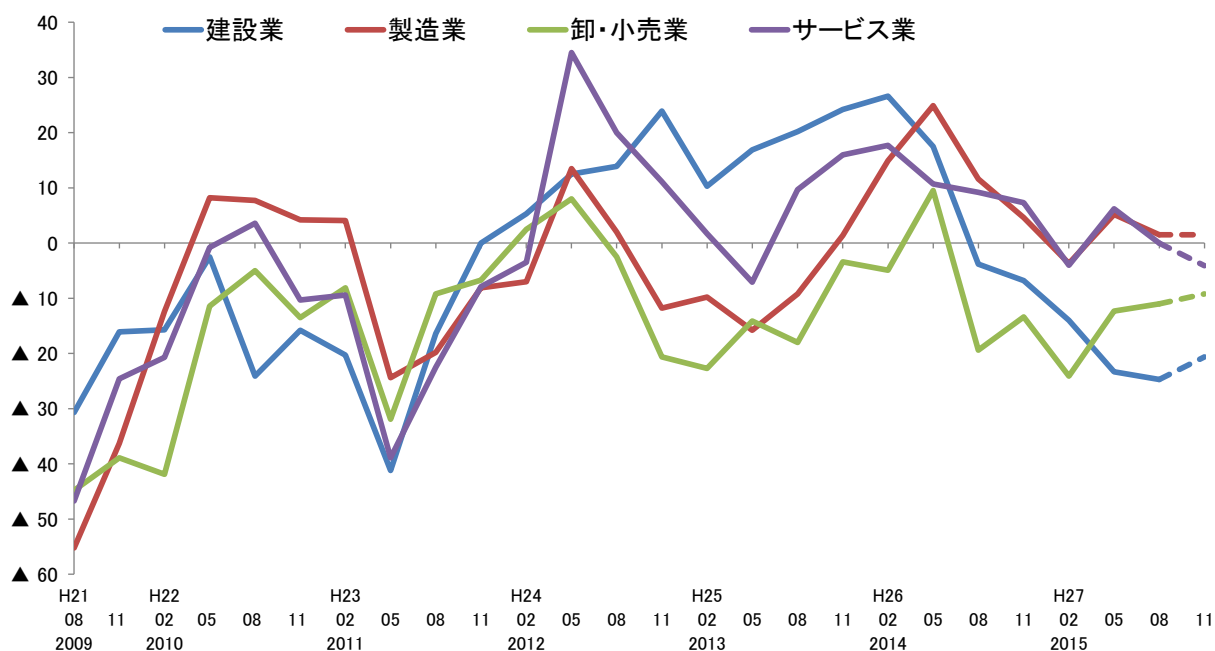
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、卸・小売業が▲11.0（前回調査比 1.3 ポイント上昇）と改善したものの、建設業が▲24.7（前回調査比 1.4 ポイント下落）、製造業が 1.5（前回調査比 3.7 ポイント下落）、サービス業が 0.0（前回調査比 6.2 ポイント下落）と、3業種で悪化となった。要因として、公共工事の減少や原材料費の高騰、消費の低迷などが考えられる。

業況の先行き見通しは、建設業と卸・小売業で改善、製造業で横ばい、サービス業で悪化の見込みとなっている。

図表 3 業種別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.08 (n=454)	▲ 0.2	▲ 3.8	11.6	▲ 19.4	9.2
H 26.11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.8	4.6	▲ 13.4	7.3
H 27.02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 14.0	▲ 3.7	▲ 24.1	▲ 4.0
H 27.05 (n=442)	▲ 5.5	▲ 23.3	5.2	▲ 12.3	6.2
H 27.08 (n=435)	▲ 7.9	▲ 24.7	1.5	▲ 11.0	0.0
前回調査比	(▲ 2.4)	(▲ 1.4)	(▲ 3.7)	(1.3)	(▲ 6.2)
先行き見通し	▲ 7.3	▲ 20.6	1.5	▲ 9.2	▲ 4.1
今回調査比	(0.6)	(4.1)	(0.0)	(1.8)	(▲ 4.1)

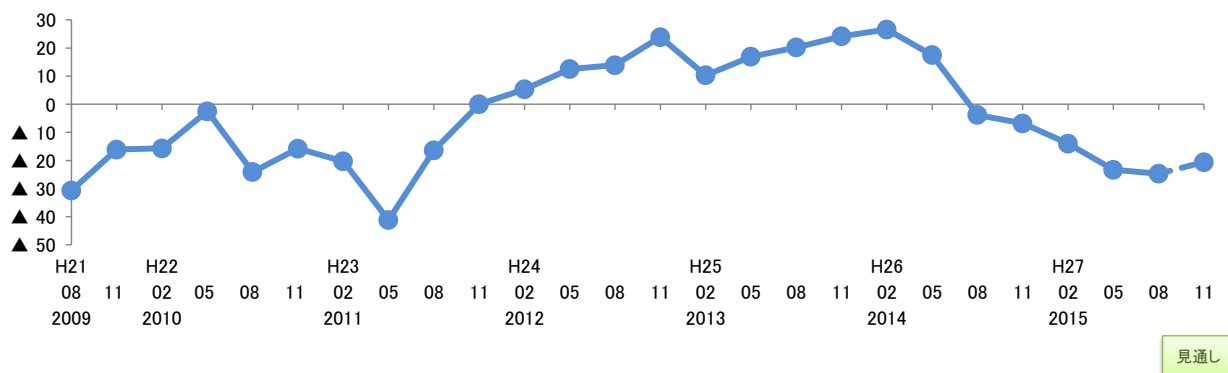
(2) 業種別DI値の動向

① 建設業

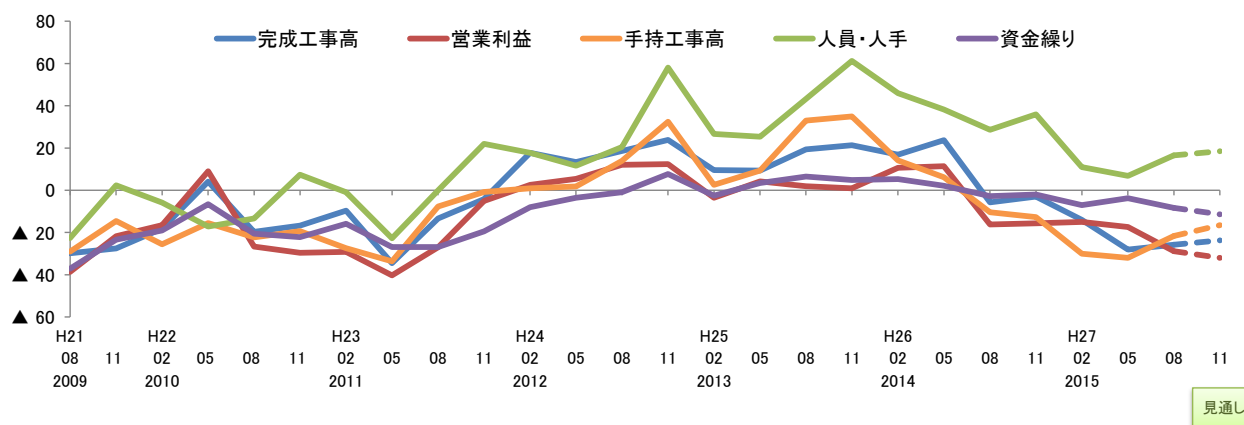
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲24.7（前回調査比 1.4 ポイント下落）と若干下落し、6期連続で悪化となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「営業利益」「資金繰り」が悪化となっており、中でも「営業利益」の悪化幅が大きい。一方、「完成工事高」「手持工事高」は改善しているものの、低水準で推移している。「人員・人手」は16.5（前回調査比 9.7 ポイント上昇）と、人手不足感が強まっている。「自社の業況DI値（前年同期比）」の悪化要因として、公共工事の減少などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲20.6（今回調査比 4.1 ポイント上昇）と若干改善の見込みとなっている。

図表4 建設業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表5 建設業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

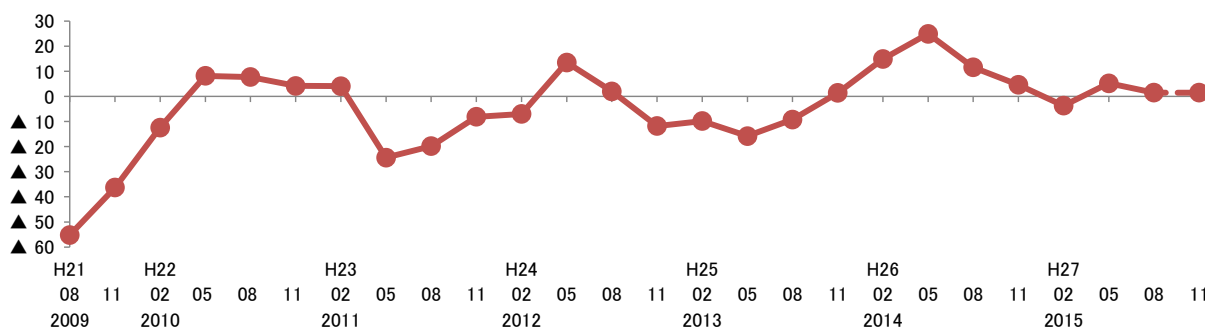
建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H 26.08 (n=105)	▲ 3.8	(▲ 21.3)	▲ 15.5	▲ 5.7	▲ 16.2	▲ 10.4	28.6	▲ 2.8
H 26.11 (n=103)	▲ 6.8	(▲ 3.0)	0.0	▲ 3.0	▲ 15.6	▲ 12.7	35.9	▲ 2.0
H 27.02 (n=100)	▲ 14.0	(▲ 7.2)	▲ 24.2	▲ 14.0	▲ 15.0	▲ 30.0	11.0	▲ 7.0
H 27.05 (n=103)	▲ 23.3	(▲ 9.3)	▲ 27.0	▲ 28.1	▲ 17.4	▲ 32.0	6.8	▲ 3.8
H 27.08 (n=97)	▲ 24.7	(▲ 1.4)	▲ 40.8	▲ 25.8	▲ 28.8	▲ 21.6	16.5	▲ 8.3
前回調査比	-	-	-	(2.3)	(▲ 11.4)	(10.4)	(9.7)	(▲ 4.5)
先行き見通し	▲ 20.6	-	-	▲ 23.7	▲ 32.0	▲ 16.5	18.5	▲ 11.4
今回調査比	(4.1)	-	-	(2.1)	(▲ 3.2)	(5.1)	(2.0)	(▲ 3.1)

② 製造業

「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は 1.5（前回調査比 3.7 ポイント下落）と D I 値はプラスを維持しているものの、若干悪化した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「仕入価格」「在庫状況」「人員・人手」「資金繰り」の 4 項目で改善しているものの、「売上高」「営業利益」が悪化した。中でも「営業利益」の悪化幅が大きい。要因として円安による原材料価格の高騰などが考えられる。

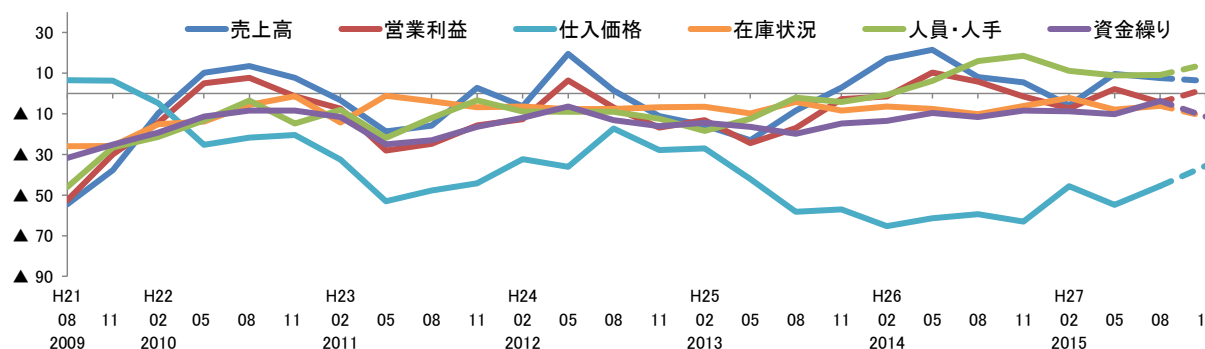
業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が 1.5（今回調査比±0）と横ばいの見込みとなっている。

図表 6 製造業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 7 製造業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況 D I 値

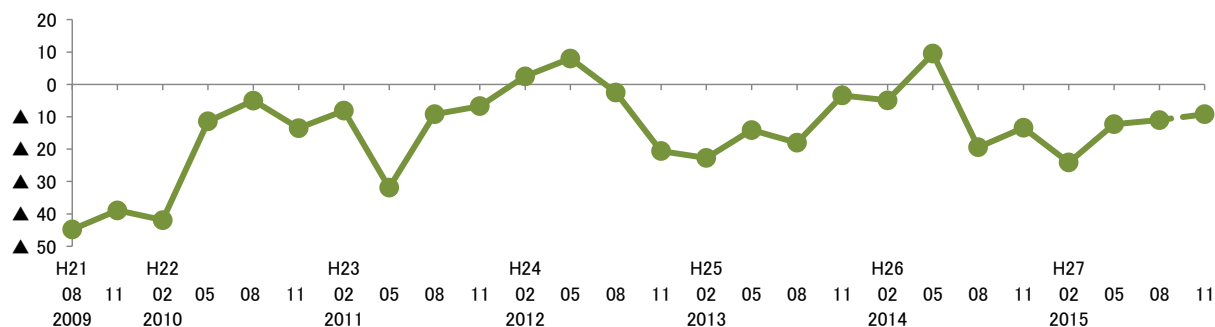
製造業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 26.08 (n=138)	11.6 (▲ 13.3)	▲ 6.9		8.0	5.8	▲ 59.4	▲ 10.2	15.9	▲ 11.6
H 26.11 (n=130)	4.6 (▲ 7.0)	7.9		5.4	▲ 1.5	▲ 63.1	▲ 6.2	18.5	▲ 8.5
H 27.02 (n=136)	▲ 3.7 (▲ 8.3)	▲ 6.1	▲ 5.9	▲ 7.4	▲ 45.6	▲ 2.2	11.1	▲ 8.8	
H 27.05 (n=137)	5.2 (8.9)	▲ 3.7	9.5	2.2	▲ 54.8	▲ 8.0	8.8	▲ 10.2	
H 27.08 (n=132)	1.5 (▲ 3.7)	1.4	7.6	▲ 4.5	▲ 45.5	▲ 6.1	9.1	▲ 3.8	
前回調査比	-	-	(▲ 1.9)	(▲ 6.7)	(9.3)	(1.9)	(0.3)	(6.4)	
先行き見通し	1.5	-	6.1	2.3	▲ 35.6	▲ 11.4	14.4	▲ 11.4	
今回調査比	(0.0)	-	(▲ 1.5)	(6.8)	(9.9)	(▲ 5.3)	(5.3)	(▲ 7.6)	

③ 卸・小売業

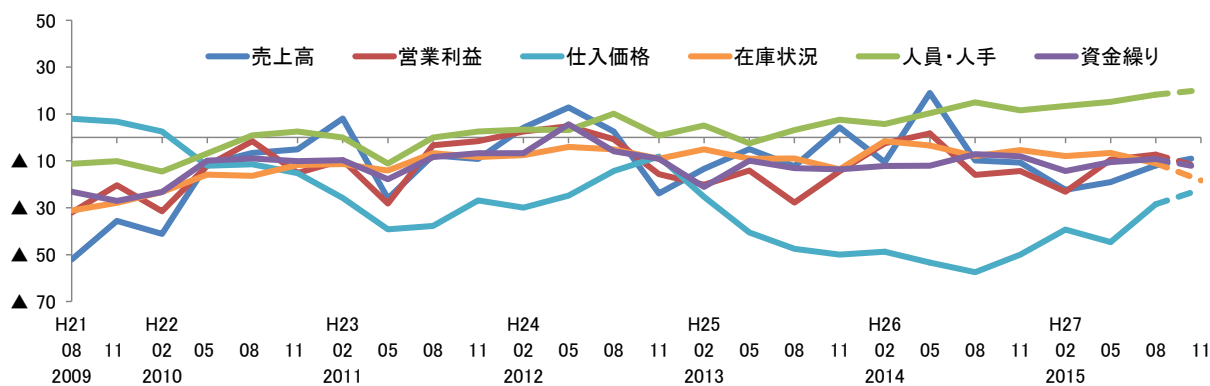
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲11.0（前回調査比 1.3 ポイント上昇）と、D I 値はマイナスながら若干上昇し、2 期連続で改善した。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「在庫状況」が悪化しているものの、その他の 5 項目で改善している。消費者の購買力は低下しているとの見方が大勢を占めるものの、一部に、消費動向の改善を感じている企業がみられる。

業況の先行き見通しは、▲9.2（今回調査比 1.8 ポイント上昇）と若干改善の見込みとなっている。

図表 8 卸・小売業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

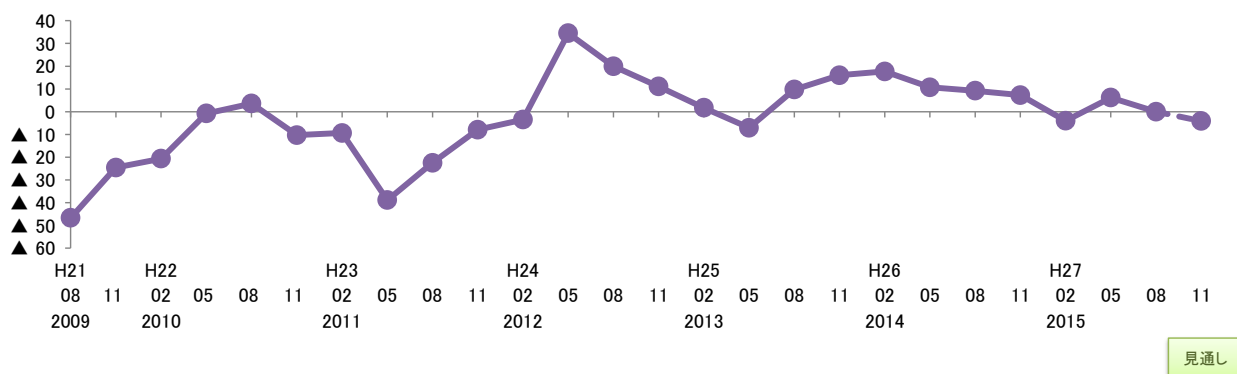
卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H 26.08 (n=113)	▲ 19.4	(▲ 28.9)	▲ 21.5	▲ 9.8	▲ 16.0	▲ 57.5	▲ 7.9	15.0	▲ 7.1
H 26.11 (n=112)	▲ 13.4	(6.0)	▲ 17.7	▲ 10.7	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 5.4	11.6	▲ 8.1
H 27.02 (n=112)	▲ 24.1	(▲ 10.7)	▲ 16.1	▲ 22.3	▲ 23.2	▲ 39.3	▲ 8.0	13.4	▲ 14.3
H 27.05 (n=105)	▲ 12.3	(11.8)	▲ 24.1	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 44.7	▲ 6.6	15.2	▲ 10.5
H 27.08 (n=109)	▲ 11.0	(1.3)	▲ 14.3	▲ 12.0	▲ 7.3	▲ 28.5	▲ 11.0	18.3	▲ 9.2
前回調査比	-	-	-	(7.1)	(2.2)	(16.2)	(▲ 4.4)	(3.1)	(1.3)
先行き見通し	▲ 9.2	-	-	▲ 8.3	▲ 12.8	▲ 22.1	▲ 18.3	20.2	▲ 12.9
今回調査比	(1.8)	-	-	(3.7)	(▲ 5.5)	(6.4)	(▲ 7.3)	(1.9)	(▲ 3.7)

④ サービス業

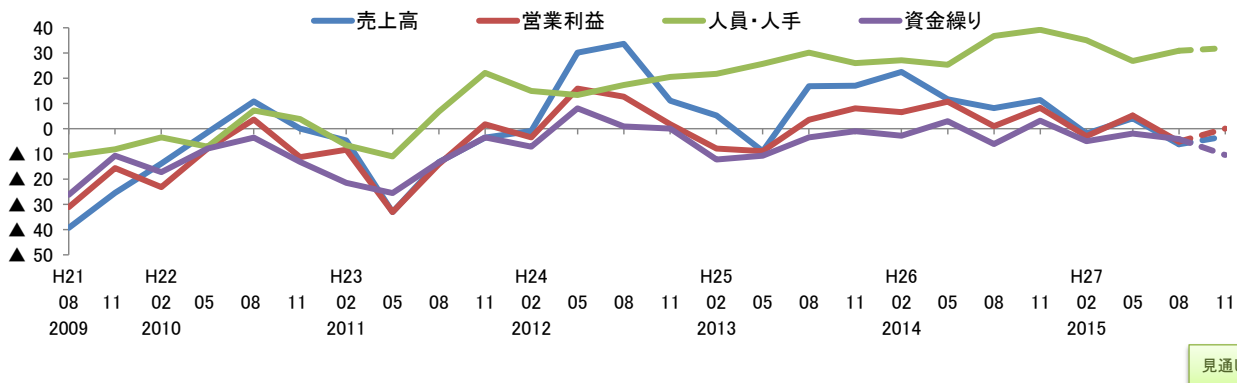
「自社の業況D I 値（前年同期比）」は0.0（前回調査比6.2ポイント下落）と、再び悪化となった。「各種D I 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目で悪化となり、中でも「売上高」と「営業利益」の悪化幅が大きい。要因として、消費の低迷などが考えられる。一部の旅館・ホテル業では蔵王山の火山活動による影響もみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲4.1（今回調査比4.1ポイント下落）とD I 値がマイナスに転じる見込みとなっている。

図表 10 サービス業「自社業況D I 値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 26. 08 (n=98)	9.2	(▲ 1.5)	▲ 12.6	8.1	1.0	36.7	▲ 6.1
H 26. 11 (n=97)	7.3	(▲ 1.9)	1.0	11.3	8.2	39.2	3.1
H 27. 02 (n=100)	▲ 4.0	(▲ 11.3)	▲ 13.4	▲ 2.0	▲ 3.0	35.0	▲ 5.0
H 27. 05 (n=97)	6.2	(10.2)	▲ 10.0	4.1	5.2	26.8	▲ 2.0
H 27. 08 (n=97)	0.0	(▲ 6.2)	▲ 12.3	▲ 6.2	▲ 5.2	30.9	▲ 4.1
前回調査比	-	-	-	(▲ 10.3)	(▲ 10.4)	(4.1)	(▲ 2.1)
先行き見通し	▲ 4.1	-	-	▲ 3.1	0.0	31.9	▲ 10.4
今回調査比	(▲ 4.1)	-	-	(3.1)	(5.2)	(1.0)	(▲ 6.3)

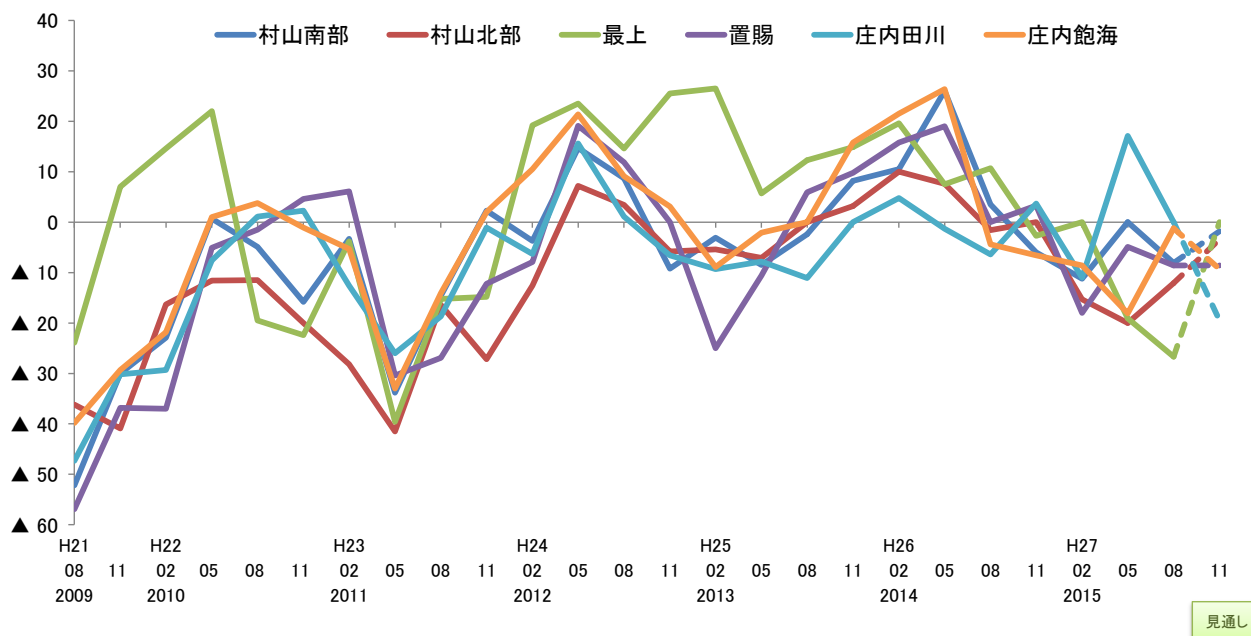
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲8.1（前回調査比8.1ポイント下落）、村山北部が▲12.1（前回調査比7.9ポイント上昇）、最上が▲26.7（前回調査比7.6ポイント下落）、置賜が▲8.6（前回調査比3.7ポイント下落）、庄内田川が0.0（前回調査比17.1ポイント下落）、庄内飽海が▲1.2（前回調査比16.9ポイント上昇）と、村山北部、庄内飽海で改善したものの、村山南部、最上、置賜、庄内田川で悪化した。

業況の先行き見通しをみると、村山南部、村山北部、最上の3地域で改善の見込みとなっている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
H 26.08 (n=454)	▲ 0.2	3.5	▲ 1.6	10.7	0.0	▲ 6.4	▲ 4.4
H 26.11 (n=442)	▲ 2.0	▲ 6.0	0.0	▲ 2.7	3.3	3.7	▲ 6.6
H 27.02 (n=448)	▲ 11.1	▲ 11.2	▲ 15.3	0.0	▲ 18.0	▲ 11.0	▲ 8.6
H 27.05 (n=442)	▲ 5.5	0.0	▲ 20.0	▲ 19.1	▲ 4.9	17.1	▲ 18.1
H 27.08 (n=435)	▲ 7.9	▲ 8.1	▲ 12.1	▲ 26.7	▲ 8.6	0.0	▲ 1.2
前回調査比	(▲ 2.4)	(▲ 8.1)	(7.9)	(▲ 7.6)	(▲ 3.7)	(▲ 17.1)	(16.9)
先行き見通し	▲ 7.3	▲ 1.8	▲ 3.4	0.0	▲ 8.6	▲ 19.5	▲ 9.3
今回調査比	(0.6)	(6.3)	(8.7)	(26.7)	(0.0)	(▲ 19.5)	(▲ 8.1)

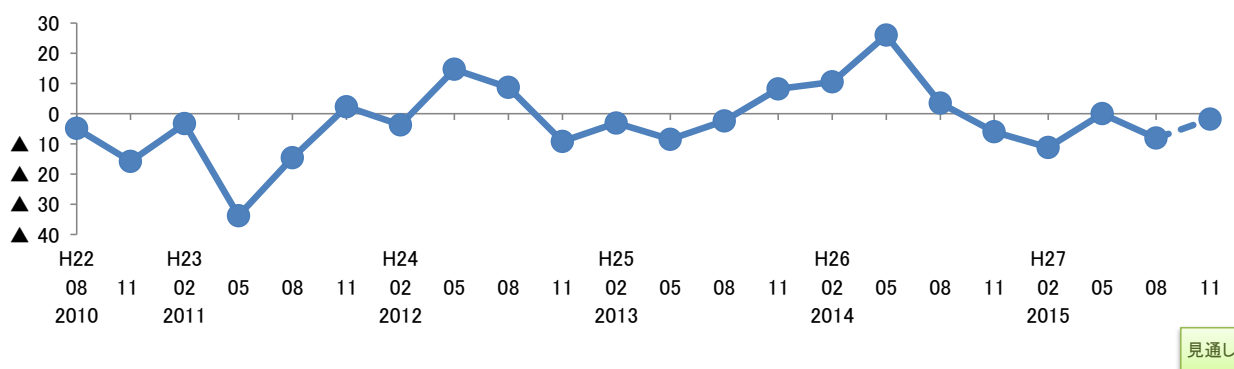
(2) 地域別DI値の動向

① 村山南部

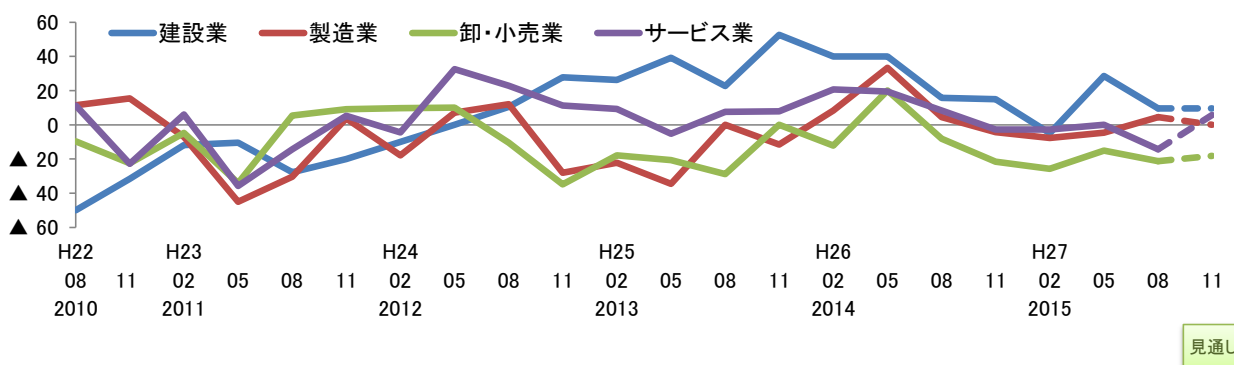
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲8.1（前回調査比8.1ポイント下落）と再び悪化となった。業種別にみると、製造業を除く3業種で悪化となり、中でも建設業とサービス業の悪化幅が大きい。要因として、公共工事の減少や消費の低迷などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲1.8（今回調査比6.3ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

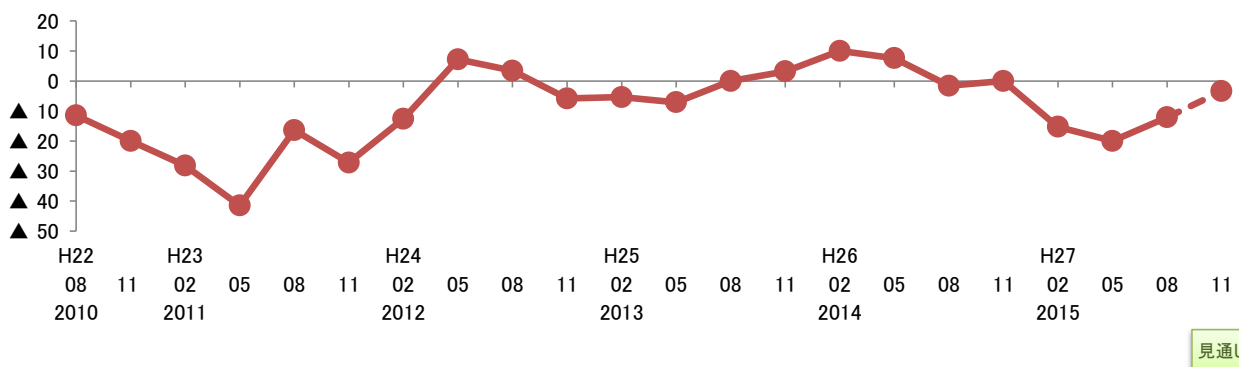
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.08 (n=114)	3.5	(▲ 22.5)	▲ 16.3	15.7	4.5	▲ 8.1	8.4
H 26.11 (n=117)	▲ 6.0	(▲ 9.5)	0.0	15.0	▲ 4.3	▲ 21.6	▲ 2.7
H 27.02 (n=116)	▲ 11.2	(▲ 5.2)	▲ 6.8	▲ 5.0	▲ 7.7	▲ 25.7	▲ 2.8
H 27.05 (n=113)	0.0	(11.2)	▲ 13.7	28.6	▲ 4.6	▲ 15.1	0.0
H 27.08 (n=111)	▲ 8.1	(▲ 8.1)	▲ 15.9	9.5	4.5	▲ 21.2	▲ 14.3
前回調査比	-	-	-	(▲ 19.1)	(9.1)	(▲ 6.1)	(▲ 14.3)
先行き見通し	▲ 1.8	-	-	9.5	0.0	▲ 18.2	5.7
今回調査比	(6.3)	-	-	(0.0)	(▲ 4.5)	(3.0)	(20.0)

② 村山北部

「自社の業況D I 値（前年同期比）」は▲12.1（前回調査比 7.9 ポイント上昇）と改善した。業種別にみると、建設業と卸・小売業で大幅な改善となり、卸・小売業ではD I 値がプラスに転じた。

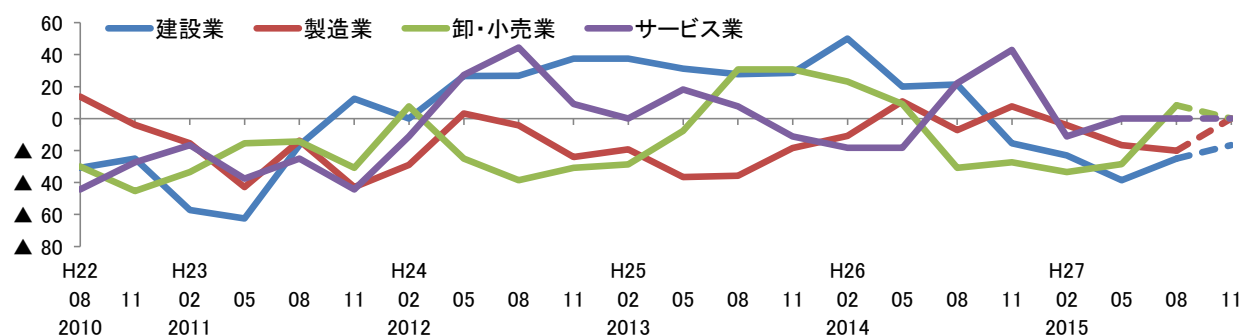
業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲3.4（今回調査比 8.7 ポイント上昇）とさらに改善の見込みとなっている。

図表 15 村山北部「自社業況D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

図表 16 村山北部「業種別・自社業況D I 値（前年同期比）」の推移



見通し

前年同期比の自社業況D I 値

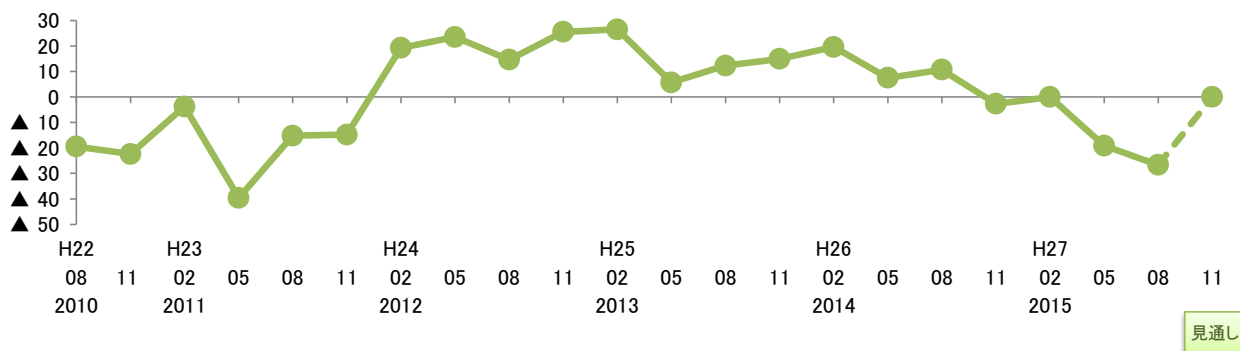
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 08 (n=64)	▲ 1. 6	(▲ 9. 2)	▲ 4. 6	21. 4	▲ 7. 2	▲ 30. 8	22. 2
H 26. 11 (n=57)	0. 0	(1. 6)	9. 3	▲ 15. 4	7. 7	▲ 27. 3	42. 9
H 27. 02 (n=59)	▲ 15. 3	(▲ 15. 3)	▲ 15. 8	▲ 23. 1	▲ 4. 0	▲ 33. 4	▲ 11. 1
H 27. 05 (n=55)	▲ 20. 0	(▲ 4. 7)	▲ 23. 7	▲ 38. 5	▲ 16. 6	▲ 28. 5	0. 0
H 27. 08 (n=58)	▲ 12. 1	(7. 9)	▲ 14. 6	▲ 25. 0	▲ 20. 0	8. 3	0. 0
前回調査比	-	-	-	(13. 5)	(▲ 3. 4)	(36. 8)	(0. 0)
先行き見通し	▲ 3. 4	-	-	▲ 16. 6	0. 0	0. 0	0. 0
今回調査比	(8. 7)	-	-	(8. 4)	(20. 0)	(▲ 8. 3)	(0. 0)

③ 最上

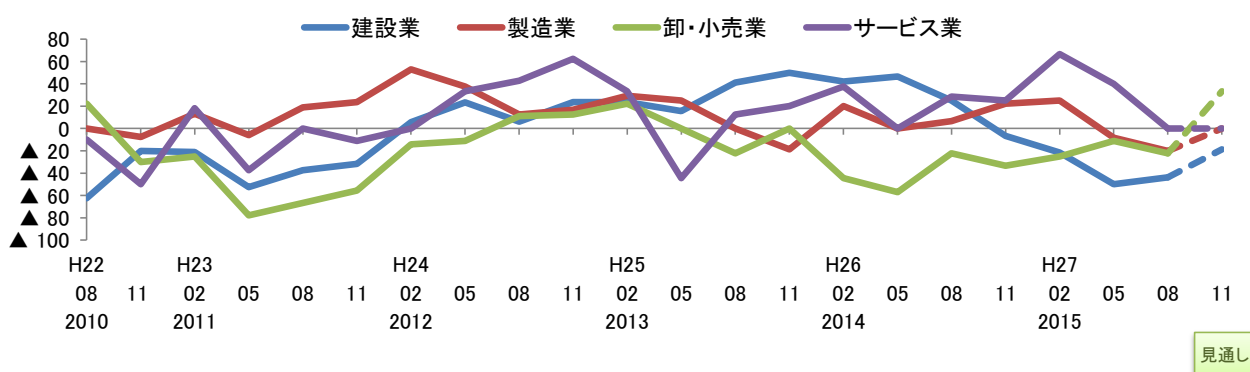
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲26.7（前回調査比7.6ポイント下落）と2期連続で悪化した。業種別にみると、建設業が改善したものの、製造業、卸・小売業、サービス業で大幅に悪化している。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が0.0（今回調査比26.7ポイント上昇）と大幅に改善の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

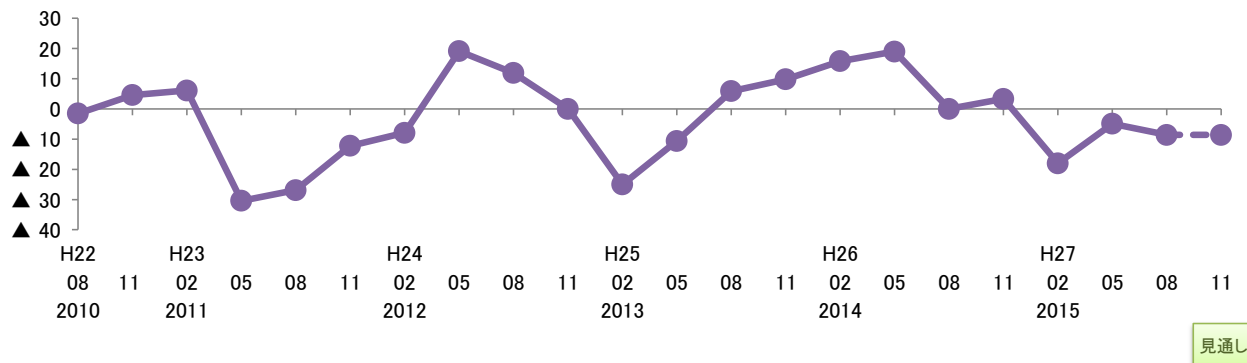
最上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.08 (n=47)	10.7	(3.2)	▲ 2.5	25.0	6.6	▲ 22.2	28.5
H 26.11 (n=37)	▲ 2.7	(▲ 13.4)	4.2	▲ 6.7	22.2	▲ 33.4	25.0
H 27.02 (n=37)	0.0	(2.7)	▲ 16.2	▲ 21.5	25.0	▲ 25.0	66.7
H 27.05 (n=42)	▲ 19.1	(▲ 19.1)	▲ 24.3	▲ 50.0	▲ 8.3	▲ 11.1	40.0
H 27.08 (n=45)	▲ 26.7	(▲ 7.6)	▲ 31.0	▲ 43.7	▲ 20.0	▲ 22.2	0.0
前回調査比	-	-	-	(6.3)	(▲ 11.7)	(▲ 11.1)	(▲ 40.0)
先行き見通し	0.0	-	-	▲ 18.8	0.0	33.3	0.0
今回調査比	(26.7)	-	-	(24.9)	(20.0)	(55.5)	(0.0)

④ 置 賜

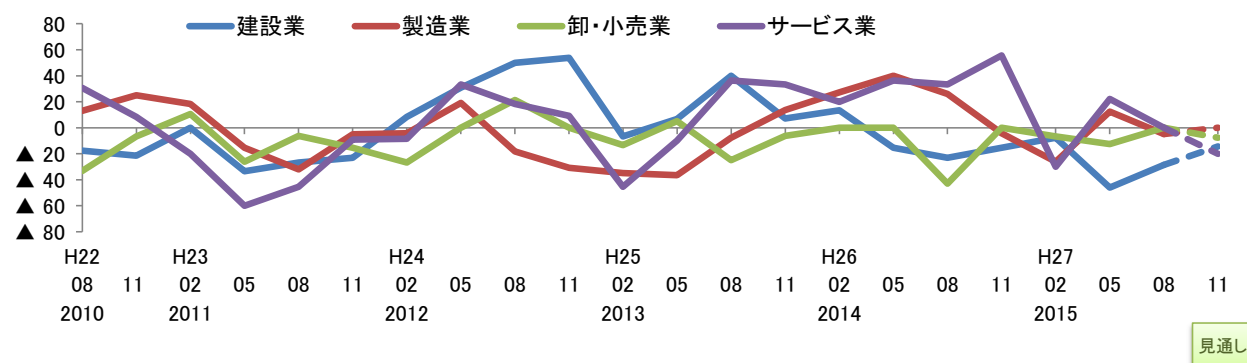
「自社の業況D I 値（前年同期比）」は▲8.6（前回調査比3.7ポイント下落）と若干悪化した。業種別にみると、建設業と卸・小売業で大幅に改善する一方、製造業とサービス業で大幅に悪化となっている。悪化要因として、原材料価格の高騰などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値」が▲8.6（今回調査比±0）と横ばいの見込みとなっている。

図表 19 置賜「自社業況D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

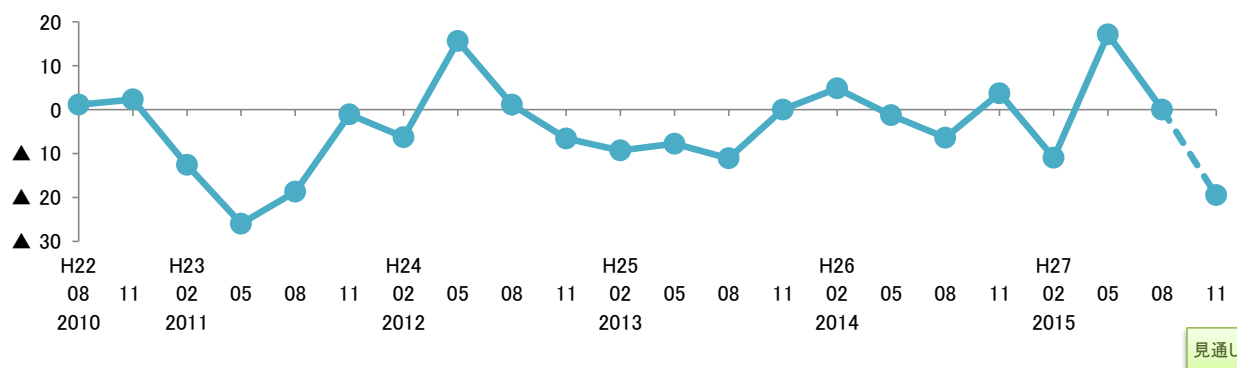
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.08 (n=59)	0.0	(▲ 19.0)	▲ 8.0	▲ 23.1	26.1	▲ 42.9	33.3
H 26.11 (n=61)	3.3	(3.3)	▲ 5.1	▲ 15.4	▲ 4.3	0.0	55.6
H 27.02 (n=61)	▲ 18.0	(▲ 21.3)	▲ 14.7	▲ 7.7	▲ 26.1	▲ 6.6	▲ 30.0
H 27.05 (n=62)	▲ 4.9	(13.1)	▲ 4.9	▲ 46.1	12.5	▲ 12.5	22.2
H 27.08 (n=58)	▲ 8.6	(▲ 3.7)	▲ 3.2	▲ 28.6	▲ 4.8	0.0	0.0
前回調査比	-	-	-	(17.5)	(▲ 17.3)	(12.5)	(▲ 22.2)
先行き見通し	▲ 8.6	-	-	▲ 14.3	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0
今回調査比	(0.0)	-	-	(14.3)	(4.8)	(▲ 7.7)	(▲ 20.0)

⑤ 庄内田川

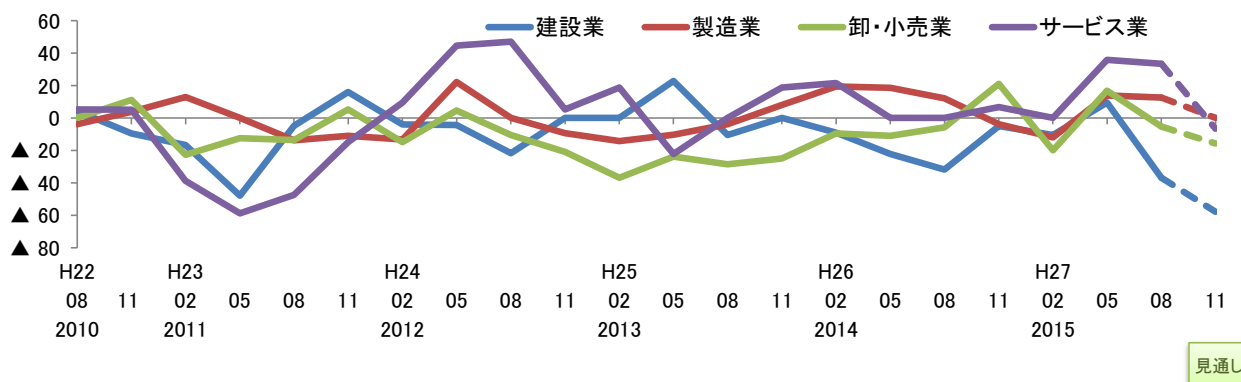
「自社の業況DI値（前年同期比）」は0.0（前回調査比17.1ポイント下落）と大幅に悪化となった。業種別にみても、すべての業種で悪化となり、中でも建設業と卸・小売業の悪化幅が大きい。建設業の悪化要因として、公共工事の減少などが考えられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値」が▲19.5（今回調査比19.5ポイント下落）とさらに大幅な悪化の見込みとなっている。中でも建設業とサービス業で大幅な悪化が見込まれている。

図表 21 庄内田川「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

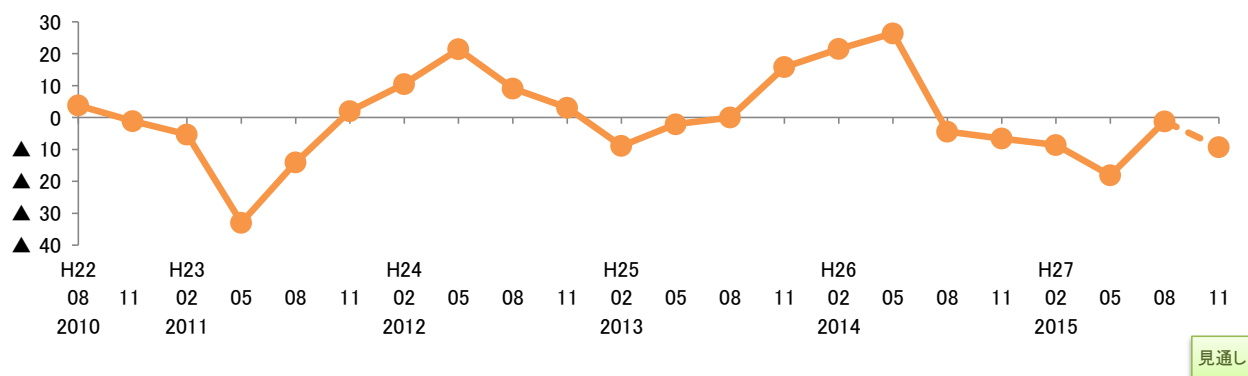
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26. 08 (n=78)	▲ 6.4	(▲ 5.1)	▲ 16.4	▲ 31.9	12.0	▲ 5.9	0.0
H 26. 11 (n=80)	3.7	(10.1)	1.3	▲ 5.0	▲ 3.8	21.0	6.7
H 27. 02 (n=82)	▲ 11.0	(▲ 14.7)	▲ 15.0	▲ 10.5	▲ 12.0	▲ 20.0	0.0
H 27. 05 (n=82)	17.1	(28.1)	▲ 18.3	9.5	13.8	16.7	35.8
H 27. 08 (n=77)	0.0	(▲ 17.1)	▲ 9.8	▲ 36.8	12.5	▲ 5.3	33.4
前回調査比	-	-	-	(▲ 46.3)	(▲ 1.3)	(▲ 22.0)	(▲ 2.4)
先行き見通し	▲ 19.5	-	-	▲ 57.9	0.0	▲ 15.8	▲ 6.6
今回調査比	(▲ 19.5)	-	-	(▲ 21.1)	(▲ 12.5)	(▲ 10.5)	(▲ 40.0)

⑥ 庄内飽海

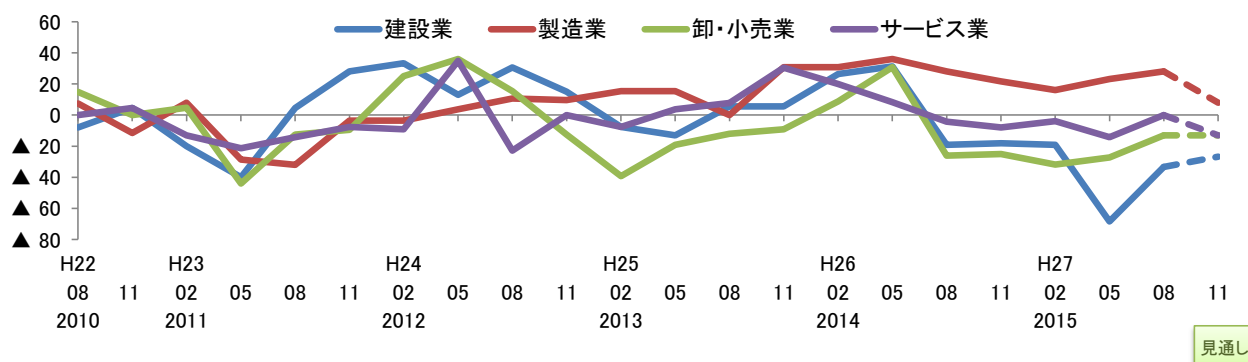
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲1.2（前回調査比 16.9 ポイント上昇）と 5 期ぶりに改善となった。業種別にみても、すべての業種で改善となり、中でも、D I 値は大幅なマイナスながら、建設業の改善幅が大きくなっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値」が▲9.3（今回調査比 8.1 ポイント下落）と悪化の見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
H 26.08 (n=92)	▲ 4.4	(▲ 30.8)	▲ 23.1	▲ 19.1	28.0	▲ 26.1	▲ 4.3
H 26.11 (n=90)	▲ 6.6	(▲ 2.2)	▲ 15.2	▲ 18.2	21.7	▲ 25.0	▲ 8.0
H 27.02 (n=93)	▲ 8.6	(▲ 2.0)	▲ 22.2	▲ 19.1	16.0	▲ 31.8	▲ 4.0
H 27.05 (n=88)	▲ 18.1	(▲ 9.5)	▲ 12.9	▲ 68.4	23.1	▲ 27.3	▲ 14.3
H 27.08 (n=86)	▲ 1.2	(16.9)	▲ 20.5	▲ 33.4	28.0	▲ 13.1	0.0
前回調査比	-	-	-	(35.0)	(4.9)	(14.2)	(14.3)
先行き見通し	▲ 9.3	-	-	▲ 26.7	8.0	▲ 13.1	▲ 13.0
今回調査比	(▲ 8.1)	-	-	(6.7)	(▲ 20.0)	(0.0)	(▲ 13.0)

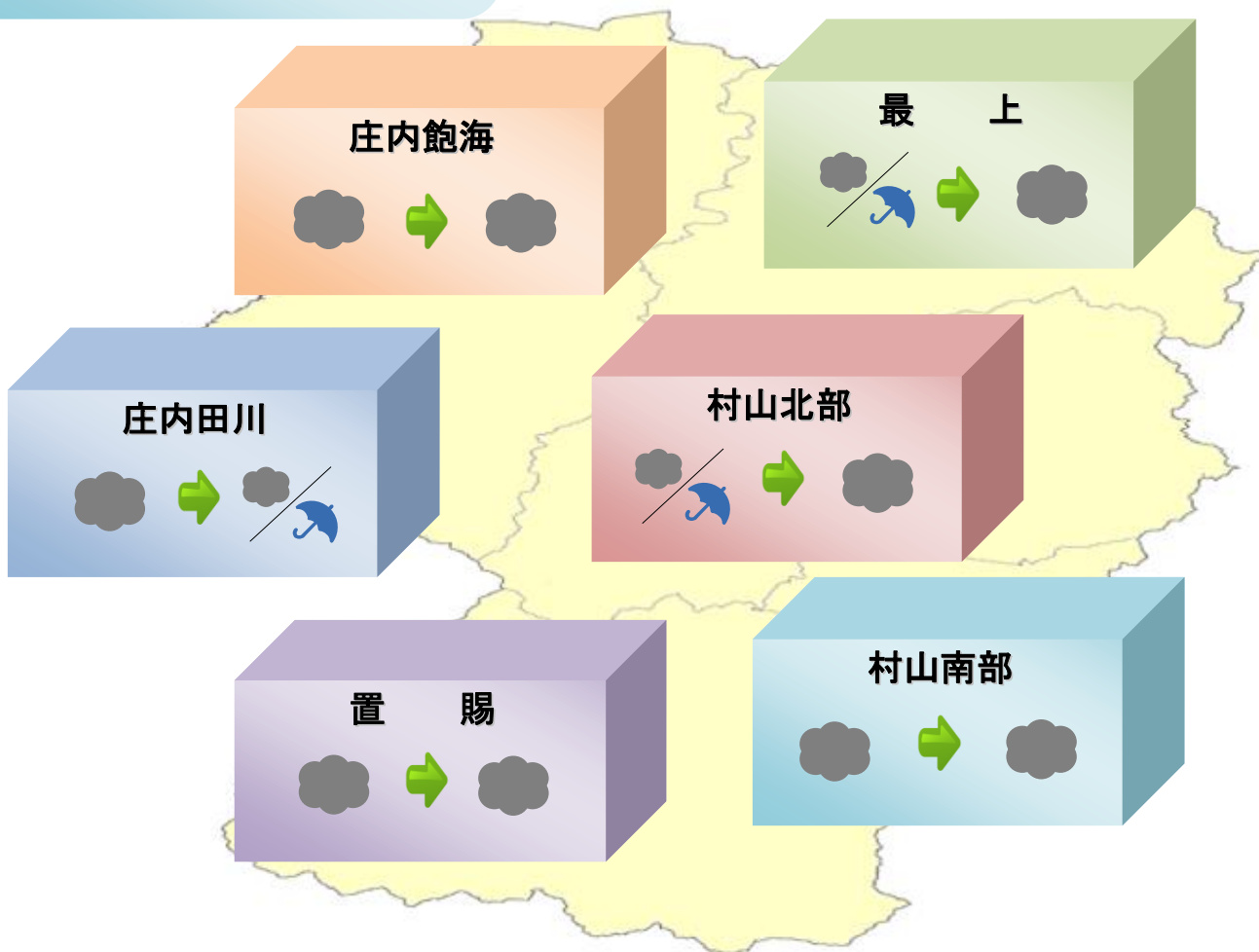
II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

山形県

今期の業況 → 来期の見通し



今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し



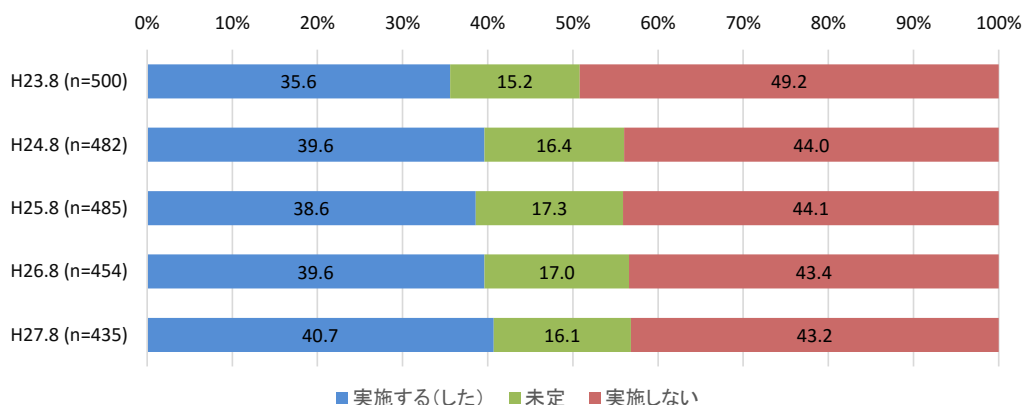
	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

1. 設備投資動向

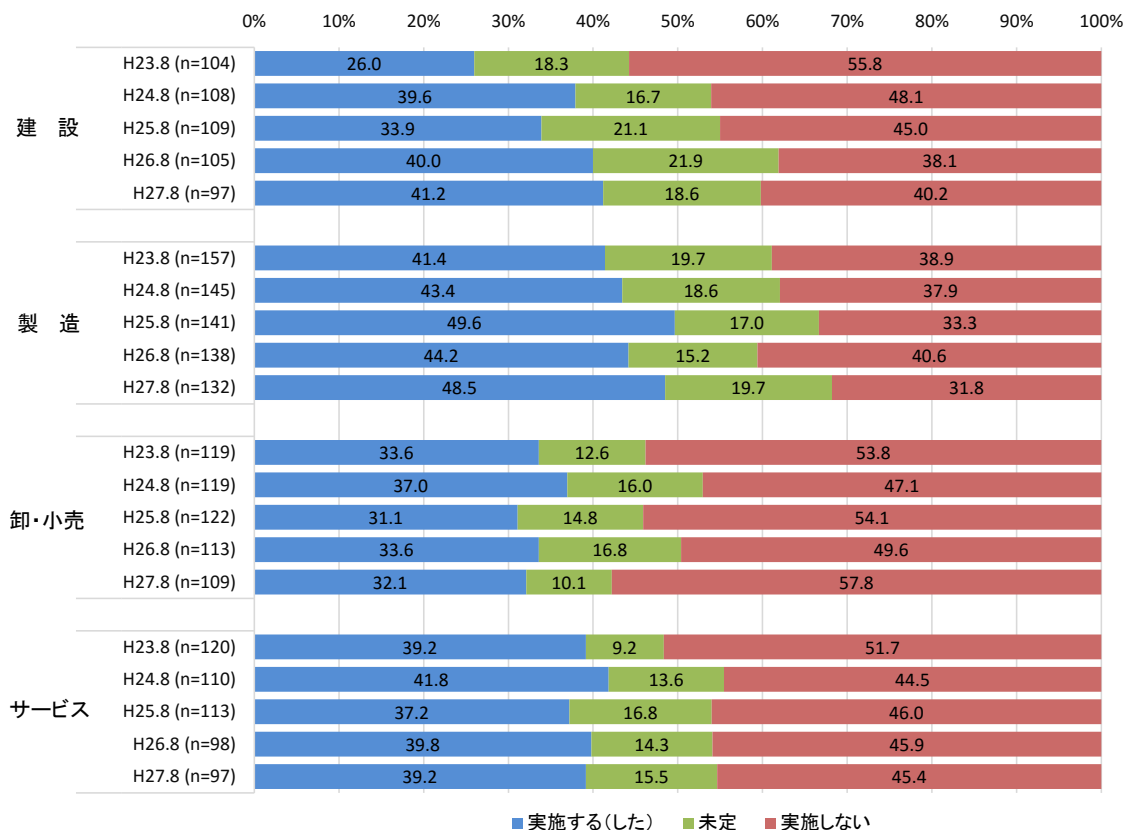
27年度中に設備投資を「実施した」、または「実施する」と回答した企業の割合は40.7%（昨年度比1.1ポイント上昇）と、昨年度とほぼ横ばいとなった。

図表 25 「設備投資動向」の推移



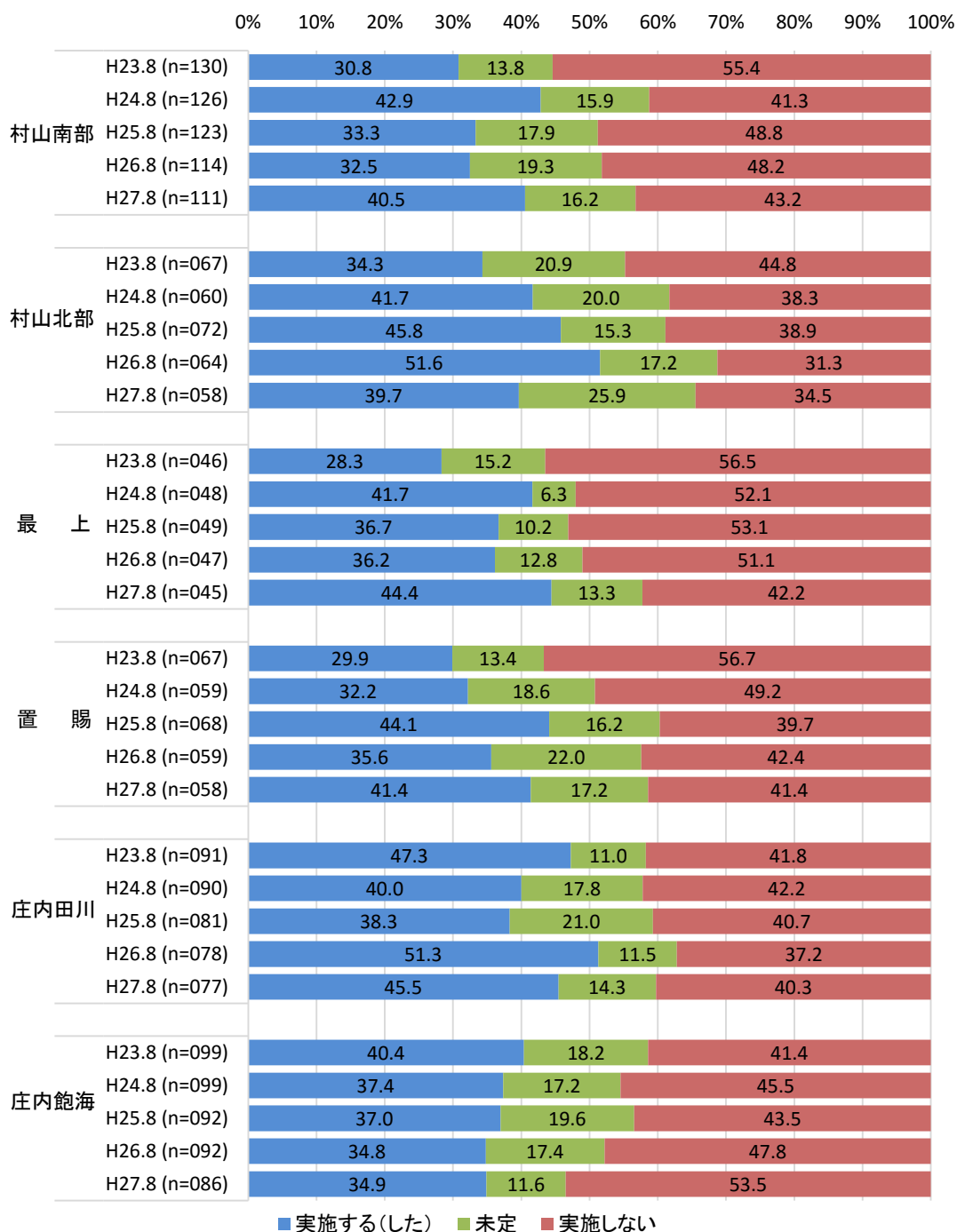
業種別にみると、「実施する（した）」と回答した企業の割合は、建設業が41.2%（昨年度比1.2ポイント上昇）、製造業が48.5%（昨年度比4.3ポイント上昇）、卸・小売業が32.1%（昨年度比1.5ポイント低下）、サービス業が39.2%（昨年度比0.6ポイント低下）と、建設業と製造業で上昇し、卸・小売業とサービス業で低下した。

図表 26 業種別「設備投資動向」の推移



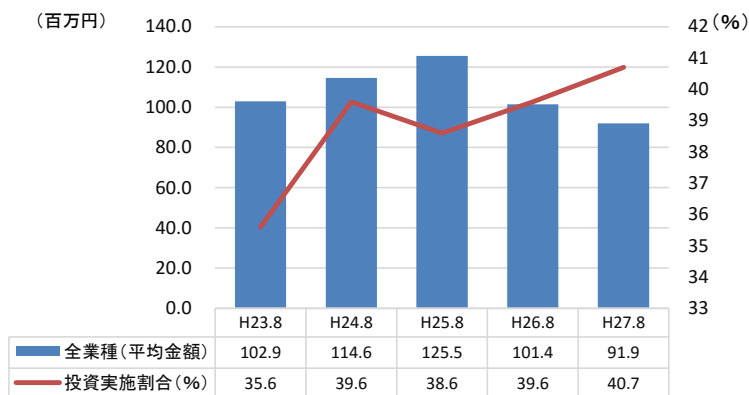
地域別にみると、「実施する（した）」と回答した企業の割合は、村山南部は 40.5%（昨年度比 8.0 ポイント上昇）、村山北部は 39.7%（昨年度比 11.9 ポイント低下）、最上は 44.4%（昨年度比 8.2 ポイント上昇）、置賜は 41.4%（昨年度比 5.8 ポイント上昇）、庄内田川は 45.5%（昨年度比 5.8 ポイント低下）、庄内飽海は 34.9%（昨年度比 0.1 ポイント上昇）となり、庄内田川で最も高くなった。

図表 27 地域別「設備投資動向」の推移



2. 設備投資金額

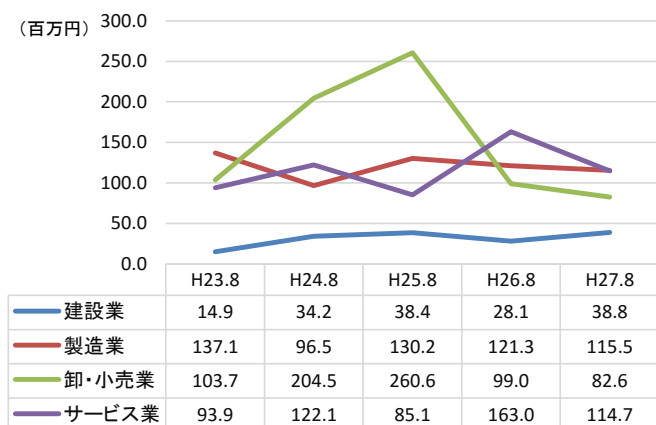
図表 28 全業種「平均設備投資金額と実施割合」の推移



設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均設備投資金額(予定含む)は約9,190万円、昨年度の調査時点よりも約950万円減少した。

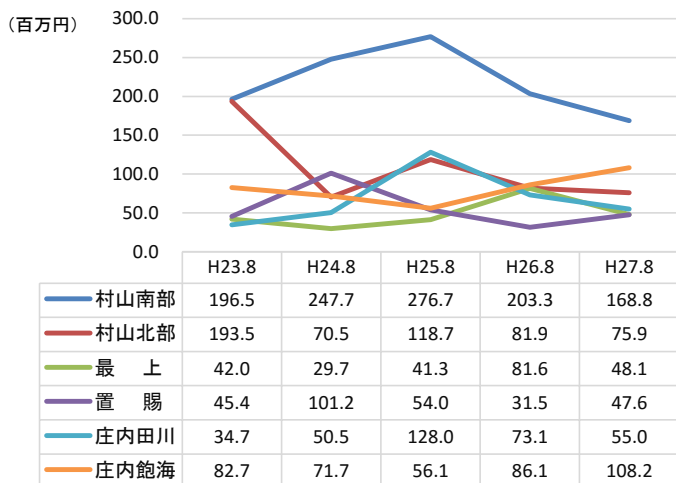
しかしながら、設備投資実施企業の割合は上昇しており、少額の設備投資が増加したものと考えられる。

図表 29 業種別「平均設備投資金額」の推移



業種別にみると、建設業が3,880万円(1,070万円減少)、製造業が1億1,550万円(580万円減少)、卸・小売業が8,260万円(1,640万円減少)、サービス業が1億1,470万円(4,830万円減少)となり、建設業を除き、減少となった。

図表 30 地域別「平均設備投資金額」の推移

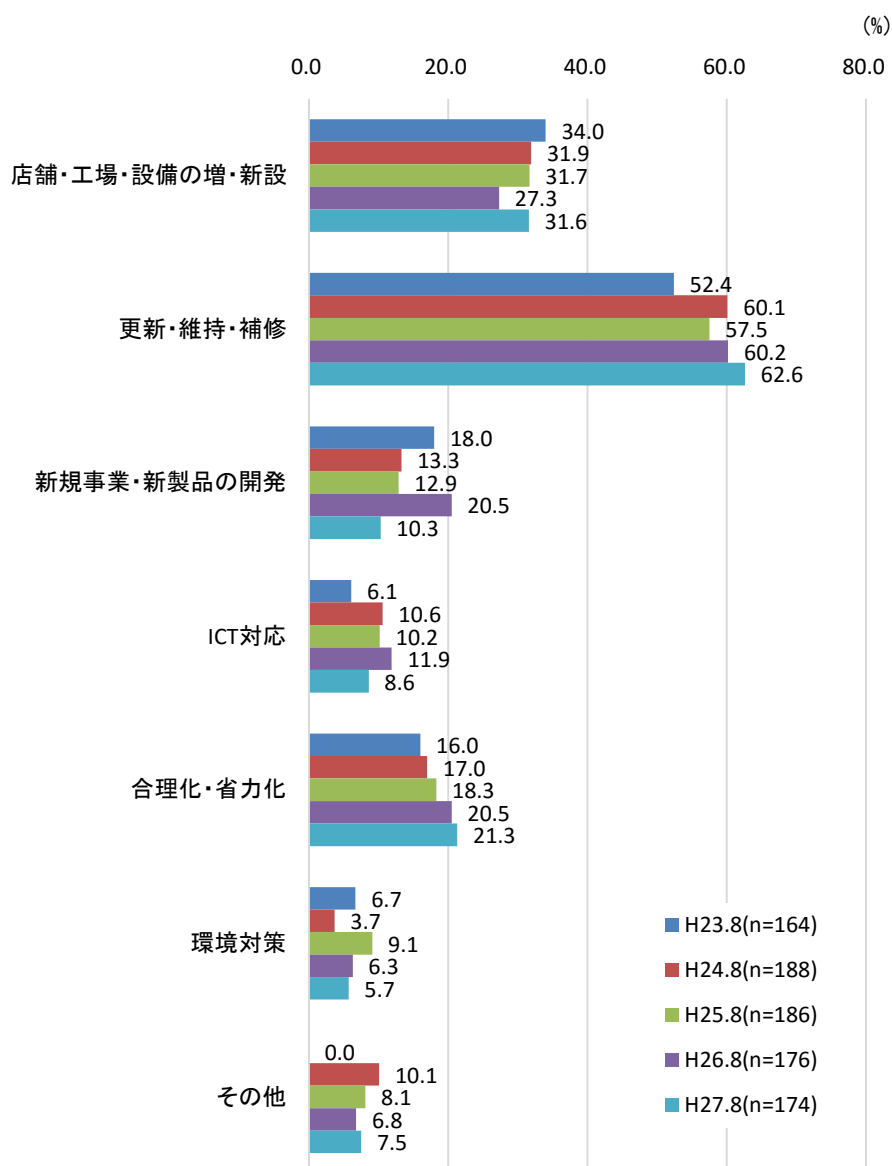


地域別にみると、村山南部が1億6,880万円(3,450万円減少)、村山北部が7,590万円(600万円減少)、最上が4,810万円(3,340万円減少)、置賜が4,760万円(1,610万円増加)、庄内田川が5,500万円(1,810万円減少)、庄内飽海が1億820万円(2,210万円増加)となり、村山南部、村山北部、最上、庄内田川の4地域で減少となった。

3. 設備投資目的

設備投資の主な目的について尋ねたところ（複数回答）、「更新・維持・補修」と回答した企業が最も多く、62.6%となった。次いで「店舗・工場・設備の増・新設」が31.6%、「合理化・省力化」が21.3%となっている。「合理化・省力化」は4期連続で増加しており、コスト管理を徹底する姿勢や、円安傾向による原材料価格の高騰に対応する状況などがうかがえる。

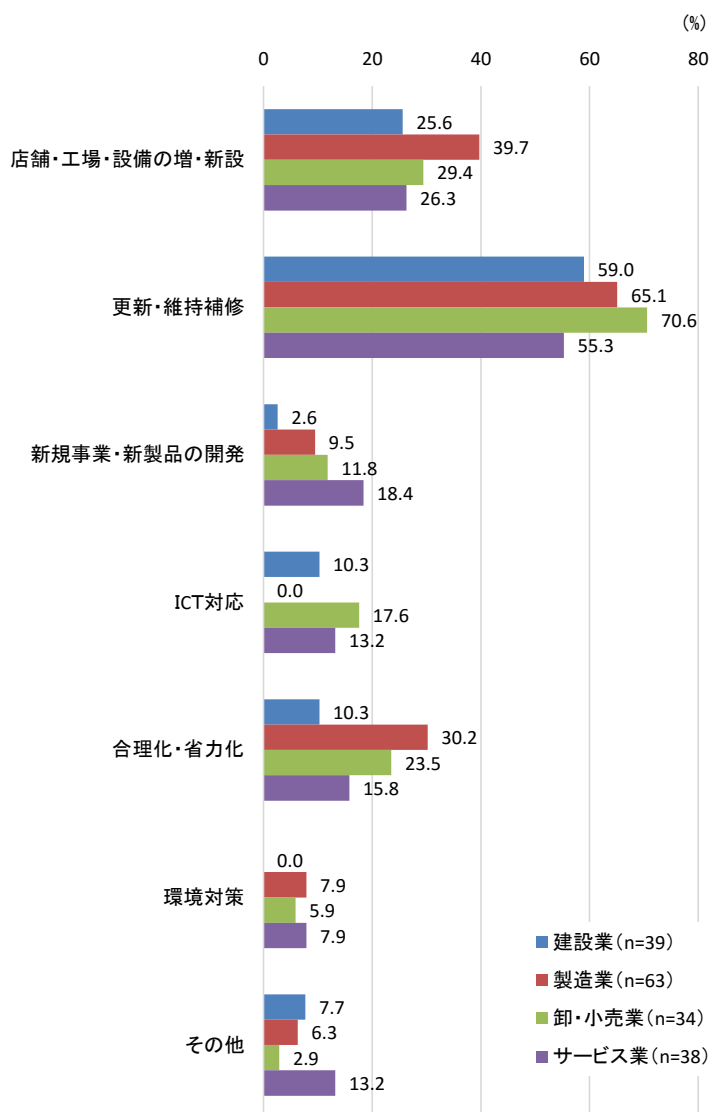
図表 31 「設備投資の目的」の推移（複数回答）



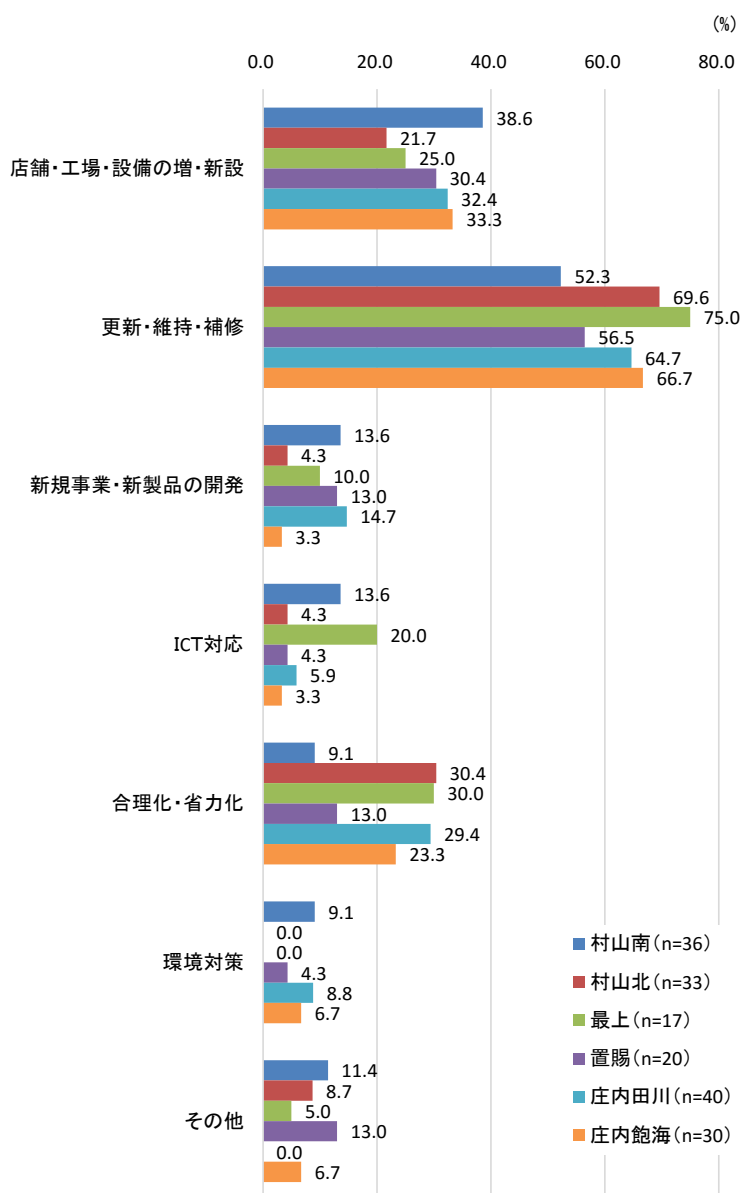
業種別に投資目的をみると、すべての業種で「更新・維持・補修」のための設備投資割合が最も高くなっている。一方、製造業で「合理化・省力化」と回答した割合が30.2%と他の業種に比べて高く、この状況は昨年度と同様で、原材料価格の高騰などに対応している状況が考えられる。

地域別に投資目的をみても、すべての地域で「更新・維持・補修」と回答した割合が最も高くなっている。また、他の地域に比べ、村山地域で「店舗・工場・設備の増・新設」の割合が高くなっている。

図表 32 業種別「設備投資の目的」(複数回答)



図表 33 地域別「設備投資の目的」(複数回答)



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	26	36	54	55	171
村山北部	22	37	18	19	96
最上	21	19	12	18	70
置賜	23	33	27	15	98
庄内田川	31	39	29	31	130
庄内飽海	36	37	34	39	146
合計	159	201	174	177	711

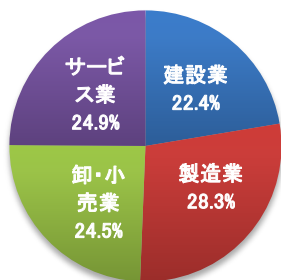
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	21	22	33	35	111
村山北部	12	25	12	9	58
最上	16	15	9	5	45
置賜	14	21	13	10	58
庄内田川	19	24	19	15	77
庄内飽海	15	25	23	23	86
合計	97	132	109	97	435

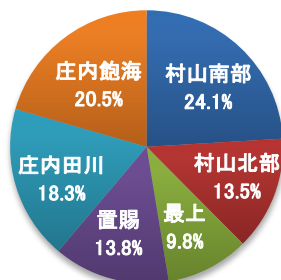
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
村山南部	80.8	61.1	61.1	63.6	64.9
村山北部	54.5	67.6	66.7	47.4	60.4
最上	76.2	78.9	75.0	27.8	64.3
置賜	60.9	63.6	48.1	66.7	59.2
庄内田川	61.3	61.5	65.5	48.4	59.2
庄内飽海	41.7	67.6	67.6	59.0	58.9
合計	61.0	65.7	62.6	54.8	61.2

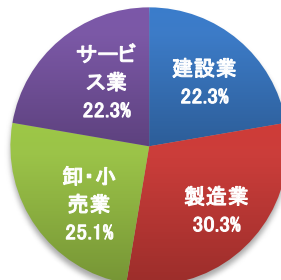
サンプル割合（業種別）



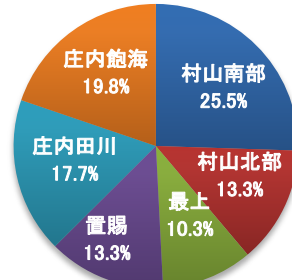
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部FAXを利用）

● 調査期間

平成27年8月3日(月)～17日(月)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製(商)品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採っている

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.f-ric.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所

研究開発グループ 熊本 均 / 松田 美由紀

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp URL : <http://www.f-ric.co.jp/>